

鹿児島港における国際旅客船拠点形成計画について【概要版】

国際的なクルーズ船の寄港拠点の形成に向けて

1, 背景

- ・東アジアにおけるクルーズ市場が急速に拡大し、日本の港湾への寄港需要が急増
- ・係留施設の確保が困難となり、安定的なクルーズ船の寄港が維持できないおそれ
- ・クルーズ船社は、岸壁の優先利用を希望する一方で、自ら投資して受入環境の向上を図る意向

官民連携による国際クルーズ拠点形成計画」を募集(2017年12月)

鹿児島県とロイヤル・カリビアン・クルーズ・リミテッド社(以下「RCL社」)が連携して計画書(目論見書)を国に提出(2018年2月)

「官民連携による国際クルーズ拠点を形成する港湾」に選定(2018年2月)

2, 港湾法改正による国際旅客船拠点形成のための新たなスキームの創設

- (公共) 係留施設等受入環境の整備
- (民間) 旅客施設等への投資 ⇒ 係留施設の優先的な使用权を取得

3, 国際旅客船拠点形成までの流れ

- ・2017年7月 8日 改正港湾法施行
- ・2018年6月29日 国際旅客船拠点形成港湾に指定(港湾法第2条の3)
- ・港湾管理者が拠点形成のための計画を作成(港湾法第50条の16)
- ・旅客施設等に投資を行う民間会社と協定を締結(港湾法第50条の18)



指定書交付式
(2018年6月29日)

鹿児島港国際旅客船拠点形成計画の概要

1, 計画の目標

鹿児島と世界をつなぐクルーズ拠点 『Kagoshima Port』

急増するアジアのクルーズ需要に対して、クルーズ船を長期的かつ安定的に日本に受け入れる体制を整えるために、“世界を魅了する観光地「kagoshima」”から、世界に誇る国際クルーズ拠点の形成を図る国内トップレベルの拠点港“鹿児島と世界をつなぐクルーズ拠点「kagoshima Port」”として発展していくことを目指す。



| | 2022年 | 2032年 |
|------|-------|-------|
| 寄港回数 | 230回 | 310回 |



- ①地理的な優位性 : 東アジアに近く、様々な航路の経路上に位置
- ②豊富な観光資源 : 桜島や錦江湾の景観、指宿や霧島などの温泉
- ③クルーズ専用岸壁 : 素晴らしい眺望と海と触れあえる緑地空間

2, 基本的な方針(係留施設(岸壁)の優先的な利用)

RCL社は、新たな岸壁を優先的に予約することが可能。

- ・優先的な利用を行う期間 : 最大40年間
- ・優先的な利用を行う日数 : 年間最大150日間
優先予約のイメージ

| | 2年前 | | 1年前 | | 予約年 | |
|----------------------------|----------|----|-------|----|----------------|----|
| | 1月 | 7月 | 1月 | 7月 | 1月 | 7月 |
| マリンポートかごしま (22万トン級対応岸壁) | RCL社予約可能 | | 他船社予約 | | 優先予約日数 150日 | |

3, 拠点形成に向けて取り組む事業 (国際旅客船取扱埠頭高度化事業等)

- ・施設整備(ハード系施策) マリンポートかごしま 22万トン級対応岸壁

【クルーズターミナル(整備済み)】

【16万トン級対応岸壁(整備済み)】

主要施設の整備スケジュール

| 事業主体 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|------|--------|------------|--------|--------|--------|
| 国 | | 係留・水域施設の整備 | | | 運用開始 |
| 県 | | 駐車場の整備 | | | |
| RCL社 | | 旅客ターミナルの整備 | | | |

連携船社: 「世界第2位のクルーズ船社」
ロイヤル・カリビアン・クルーズ・リミテッド
ROYAL CARIBBEAN CRUISES LTD.

4, その他(かごしまの「おもてなし」)

クルーズ船観光客、乗務員が鹿児島(Kagoshima)の魅力を感じ、楽しく素敵な旅の財産・思い出となってほしいとの思いから、かごしまの「おもてなし」の更なる推進を図る。

